



Corporate information

PwC Japan有限責任監査法人

PricewaterhouseCoopers Japan LLC



Purpose

社会における信頼を構築し、重要な課題を解決する。



Purpose

社会における
信頼を構築し、
重要な課題を解決する

Assurance Vision 2030

日本の未来に、あらたな信頼を

行動指針

Values and Behaviours

Message — ご挨拶 —

トラストギャップ（信頼の空白域）を埋め、社会を支える存在へ

私たちは2023年7月に、2030年に向けた中期経営ビジョン「Assurance Vision 2030」を発表しました。これは、PwCのPurpose(存在意義)である「社会における信頼を構築し、重要な課題を解決する」を実現し、いずれの時代においても社会から必要とされる存在であり続けるために、2030年における私たちを取り巻く環境を概観し、今後の法人の在り方を構想したものです。

このビジョンの策定にあたり、多様な職員との意見交換を重ねてきました。その結果見えてきたのは、社会の不確実性がより高まり、さまざまなトラストギャップ(信頼の空白域)が生まれる可能性でした。

実際、地政学リスクは高まり続け、エネルギーや気候変動問題における分断が深まっています。また、生成AIをはじめとする高度なテクノロジーの利用が著しく進み、社会が急速に変化しています。既存のルールではこれらの変化に対するガバナンスを十分に効かせることができず、社会において必要な信頼が確立できていない領域、トラストギャップが生まれています。

私たちがまず行うべきことは、監査業務の品質をより一層高めることです。PwCは世界共通の監査手法により、各国の

事業環境を踏まえながらもグローバルで一貫した高品質の監査を提供しています。

170年以上の歴史を持つ会計監査の技術を、会計監査にとどまることなく、より広い領域における信頼の確立、例えばサステナビリティ情報開示の支援に加え、その情報の信頼性を担保する保証についても積極的に貢献していきます。さらに、スマートシティなどでGPSやIoTなどから得られるあらゆるデータの信頼性を確保する仕組みの構築など、トラスト(信頼)を提供するトラストサービス構築のための研究・開発体制を強化し、未来の社会におけるトラストギャップを埋めるための準備を進めてまいります。

これらの取り組みを進めていくために最も重要なものは「人財」です。私たちは、入社年次にかかわらず、誰でも、誰に対しても自由に声を上げることを推奨する「Speak Up」の文化を全員が大切にしています。また行動指針(私たちの判断軸)を職員のボトムアップで策定しており、2025年は「探求・尊重・躍進」を判断軸としてあらたに設定しました。

共通の認識を持ちながらも多様な人財が活躍でき、一人ひとりにあったキャリア形成を進めていける組織をつくっていきます。



ステークホルダーの皆様のご意見を積極的に伺い、社会のトラストギャップを埋める存在となれるよう、弛まぬ努力を続けてまいります。

→ Movie

右の2次元コードより、「監査品質に関する報告書」や監査品質への取り組みに関するメッセージ動画をご覧いただけます。



Our strengths — 私たちの強み —

PwC Japan有限責任監査法人
執行役副代表

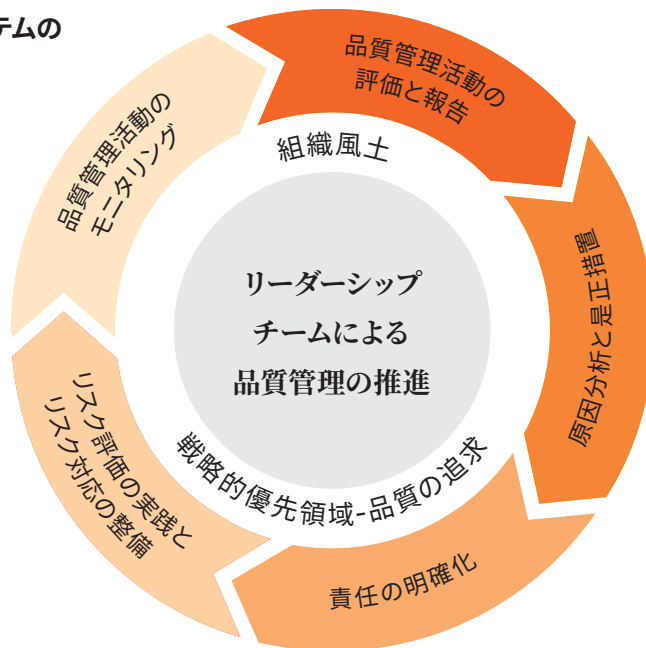
山口 健志



品質の追求と専門性

私たちは「日本の監査にあらたな風を」という決意のもとに設立した監査法人であり、品質に対して強いこだわりを持っています。業務品質を最優先事項として、監査・アドバイザー業務を通じて蓄積した専門性と実務経験によって卓越したサービスを提供するプロフェッショナル集団として、会計、レギュレーション、コンプライアンス、ガバナンス領域における専門性を活かすことで経済社会の健全な発展に貢献していきます。

品質管理システムの 評価プロセス



グローバルネットワーク

グローバル化する経済環境においては、海外拠点の社会や商慣習を理解しながら監査や現地法人の管理にあたる必要があります。PwC Japan有限責任監査法人(以下、PwC Japan 監査法人)は、世界149カ国、37万人以上の人材を擁するPwCネットワークと連携し、グローバルにおけるビジネス知見を活用しながら企業の課題を解決していきます。世界の各国には Japan Business Network (JBN)を構築し、日本企業のビジネスをサポートしています。

PwCネットワーク

所在国
149カ国

PwCの総人数
370,393名

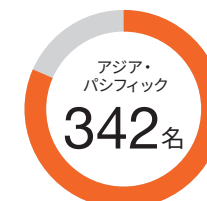
Japan Business Network (JBN)

JBN所在国 41カ国

拠点数 109カ所



日本語対応可能な人数
42名



日本語対応可能な人数
288名



日本語対応可能な人数
117名

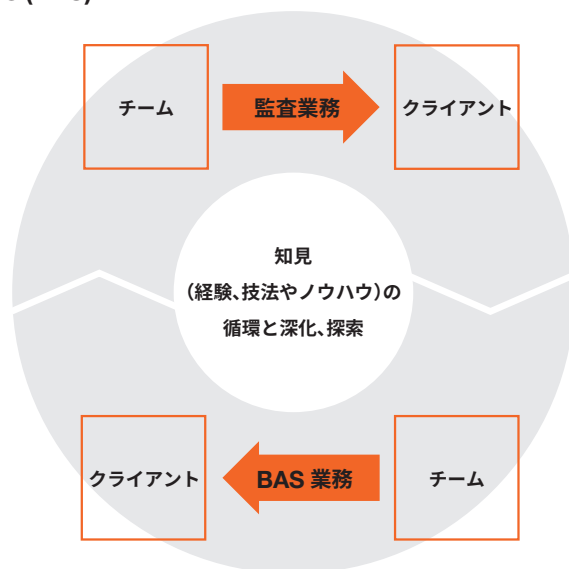
※2024年6月30日現在 (JBNの数字は2025年7月1日時点)

監査とブローダーアシュアランスサービス (BAS) の相互作用

私たちは、監査業務を通じて蓄積された会計やガバナンスに関する知見を広く社会の課題解決に役立てるため、会計・ガバナンス・コンプライアンスなどの領域におけるアドバイザリー業務を提供しています。また、アドバイザリー業務を通じて得られた業務の設計・運用側の視点を持つことで、実務運用上のリスクをより的確に把握し、これを監査におけるリスク評価などに役立てることができると考えています。

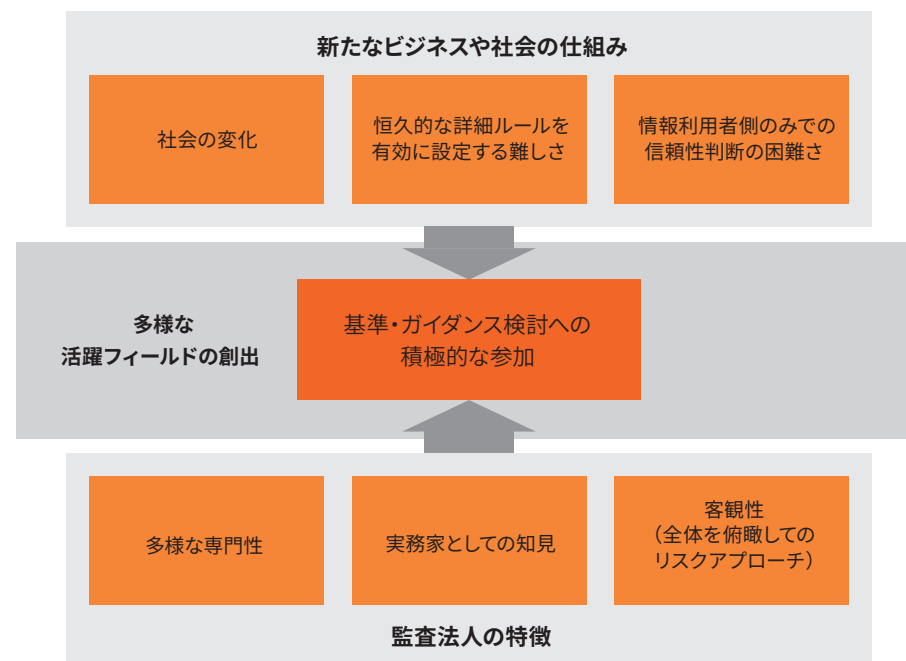
ブローダーアシュアランスサービス Broader Assurance Services (BAS)

PwC Japan監査法人は、会計監査を通じて蓄積した、会計、業務プロセス、ガバナンス、コンプライアンスなど企業の信頼に関するナレッジを、ブローダーアシュアランスサービス(アドバイザリー)の提供を通じて企業のトラスト課題の解決に役立てることで、社会における信頼の構築に貢献していきます。



デジタル社会の信頼性確保

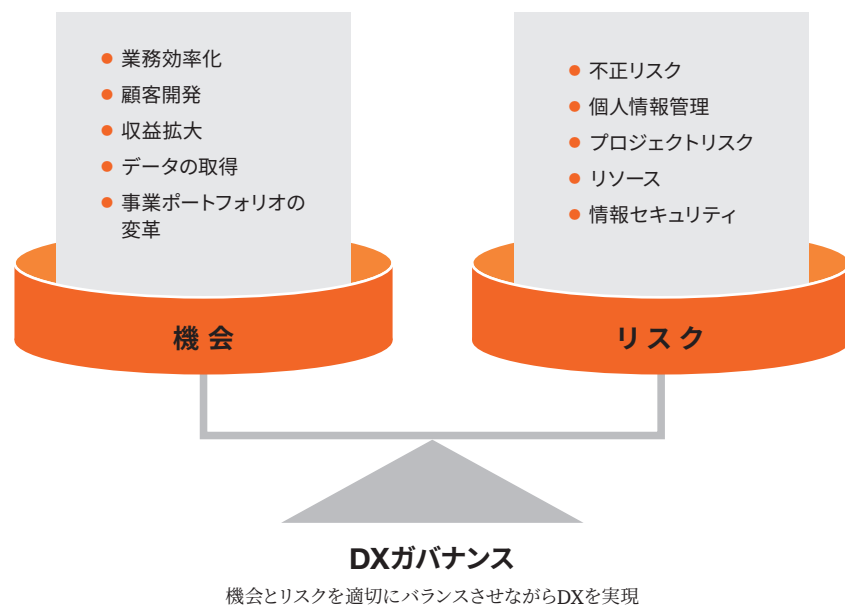
データを基にさまざまな意思決定や判断が行われるため、データそのものやデータ生成プロセスにおける信頼性の確保がますます重要になってきています。私たちは会計監査やアドバイザリー業務を通じて、デジタル社会における情報の信頼性確保について実践を重ねながら方法論を模索してきました。これまで蓄積した成果を社会の基盤として役立てるため、私たちは基準・ガイダンスの検討に積極的に参加しています。



ビジネス視点からのアプローチ

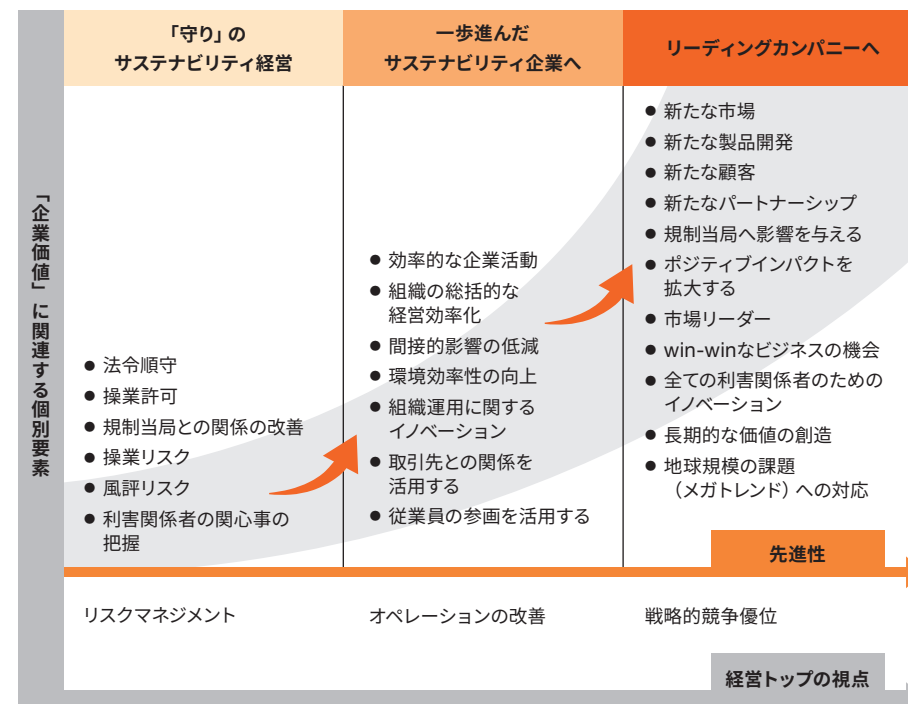
DXガバナンスアプローチ

デジタルトランスフォーメーション(DX)を推進するにあたっては、テクノロジーの活用によって機会を最大化すると同時に、さまざまなリスクとのバランスをとることが必要です。PwC Japan 監査法人は、会計監査やガバナンス・規制領域のアドバイザリー業務を通じて蓄積したガバナンスに関する専門性を活かし、企業のDXと経営管理の高度化を支援します。



サステナビリティへのアプローチ

近年、サステナビリティは単なる法令順守やリスクマネジメントではなく、競争優位性や企業価値を向上させる要素として、中長期的な経営戦略に取り組んでいくことが必要となります。PwC Japan 監査法人では、監査法人としての情報開示や保証領域だけでなく、先進性と経営トップの視点からのアプローチで、クライアントの企業価値向上を支援します。



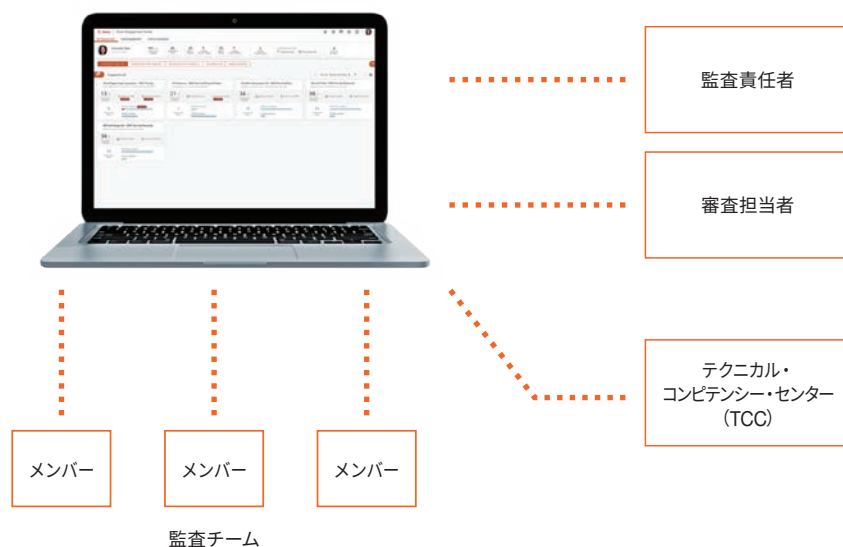
監査および保証業務

PwC Japan監査法人は高品質な監査を最優先事項として、世界に通用する監査を目指して設立した監査法人です。私たちは、徹底した品質へのこだわりとグローバルネットワークや品質管理のフレームワークや最新のデジタルツールを最大限に活用して、高品質な監査を提供してまいります。

PwCネットワークと連携した高品質な監査

PwC Japan監査法人では、国際監査基準に準拠した、PwCのメンバーファームにおいて全世界共通で利用されている監査ガイダンスであるPwC Auditに基づいて、監査を実施しています。また、監査調書ツールや分析ツールなどデジタルツールとデータを最大限に活用して、効率的で効果的なリアルタイム監査を実施します。

完全オンラインで最新の状況をリアルタイムに連携



監査品質向上の取り組みの詳細は「監査品質に関する報告書」をご覧ください。



ガバナンスと品質管理体制

監査法人のガバナンス・コードに基づいた法人の運営体制と品質管理体制を構築し、監査品質をモニタリングしています。このような取り組みにより設立以来、金融庁による行政処分や日本公認会計士協会の品質管理レビューの結果に基づく措置を受けていません。

設立以降の
金融庁による行政処分

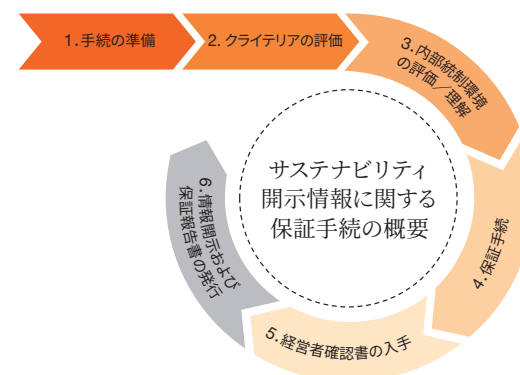
0件

設立以降の日本公認会計士協会の
品質管理レビューの
結果に基づく措置

0件

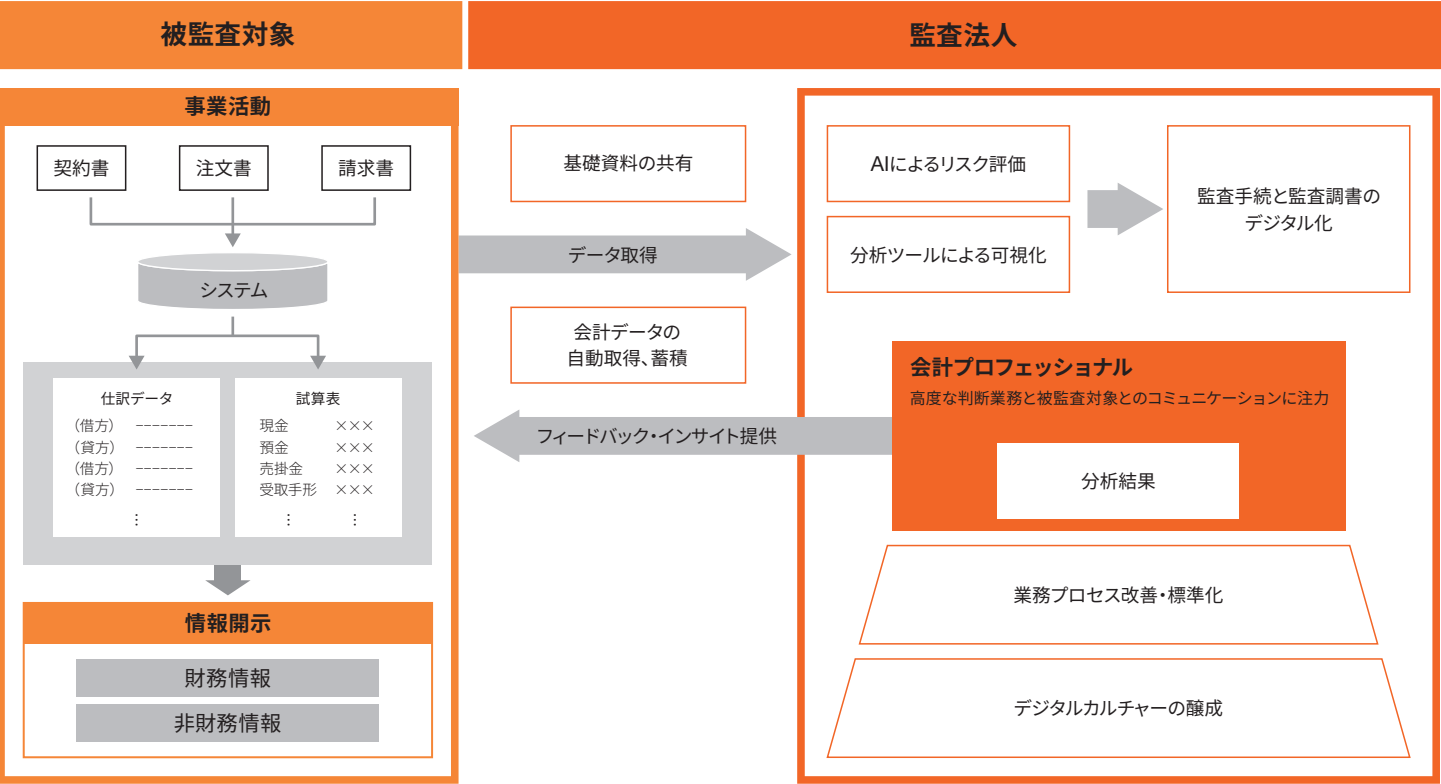
サステナビリティ開示情報に対する保証業務

サステナビリティ情報に関する開示規則は近年、急速に発展しており、それと同時にステークホルダーからの保証ニーズも高まっています。保証を受けることにより、情報の信頼性が高まるだけではなく、サステナビリティ開示に関する重要性を理解していることを示し、情報開示に関する意識の高い会社として評価されることにつながります。



リアルタイム監査に向けた監査業務変革

データを自動取得して、データプラットフォームに蓄積し、これをAIや分析ツールを利用して分析します。そのアウトプットを会計プロフェッショナルが判断し、そこから得られたインサイトを被監査対象に提供していく循環を作り出します。



主なサービス

監査

- 日本基準監査
金融商品取引法監査／会社法監査／
各種業法に基づく監査／
IPO監査(公開準備のための任意監査)／
独立行政法人など公的機関の監査／
その他
- 国際財務報告基準(IFRS)および
米国会計基準(US GAAP)など
海外会計基準の監査

その他の証明業務

- 受託業務にかかわる
内部統制の保証業務
(SSAE18／ISAE402に基づく証明業務)
- コンフォートレター発行業務
- 顧客資産の分別管理に関する検証業務
- 非財務情報に対する保証業務 など

PwC Japan有限責任監査法人のご紹介

PwC Japan有限責任監査法人は、日本で「監査および保証業務」、非監査業務である「ブローダーアシュアランスサービス」を提供する、PwCグローバルネットワークのメンバーファームです。世界で長年にわたる監査実績を持つPwCネットワークの監査手法と最新技術により世界水準の高品質な監査業務を提供するとともに、その知見を活用した会計、内部統制、ガバナンス、サイバーセキュリティ、規制対応、デジタル化対応、株式公開など幅広い分野に関する助言を通じて社会の重要な課題解決を支援しています。PwCビジネスアシュアランス合同会社、PwCサステナビリティ合同会社、PwCリスクアドバイザー合同会社、PwC総合研究所合同会社とともに、信頼されるプロフェッショナルとして、日本の未来にあらたな信頼をもたらすことを、Assurance Vision 2030として掲げています。

若手職員が「Assurance Vision 2030」策定の基盤となる未来シナリオを策定

PwC Japan監査法人では、「Assurance Vision 2030」を策定するにあたり、入社3年目から5年目の職員(若手職員)6名が、「10年後創造プロジェクト」と題して、「政治経済」「気候変動」「信頼」の軸から4つの未来シナリオを作成し、経営陣に提言しました。PwC Japan監査法人は、若手職員からの提言を受け、2030年においてもPwCのPurpose(存在意義)を実現し、社会から必要とされる存在であり続けるために、どのようなことが求められるのかを検討しました。



詳細は当法人の
Webサイトをご覧ください。



PwC Japan有限責任監査法人

PricewaterhouseCoopers Japan LLC

設立：2006年6月1日

資本金：10億円（2024年6月30日現在）

代表者：代表執行役 久保田 正崇

URL：www.pwc.com/jp/assurance

Web

右の2次元コードより、
法人案内ページを
ご覧いただけます。



主たる事務所

所在地 <東京>

〒100-0004 東京都千代田区大手町1-1-1

大手町パークビルディング

Tel. 03-6212-6800（代表） Fax. 03-6212-6801（代表）

Map



その他事務所

所在地 <東京>

〒100-0004 東京都千代田区大手町1-2-1

Otemachi One タワー

Map



所在地 <名古屋>

〒450-6038 愛知県名古屋市中村区名駅1-1-4

JRセントラル Towers 38F

Tel. 052-588-3951 Fax. 052-588-3952

Map



所在地 <大阪>

〒530-0011 大阪府大阪市北区大深町4-20

グランフロント大阪 タワー A 36F

Tel. 06-6375-2610 Fax. 06-6375-2611

Map



所在地 <東京>

〒108-0023 東京都港区芝浦3-1-21

田町ステーションタワー S 13F

Tel. 03-6400-5561 Fax. 03-6400-5562

Map



所在地 <京都>

〒600-8008 京都市下京区四条通烏丸東入ル

京都三井ビル7F

Tel. 075-241-1901 Fax. 075-241-1902

Map



所在地 <福岡>

〒810-0001 福岡県福岡市中央区天神1丁目11-1

ONE FUKUOKA BLDG. 11F

Tel. 092-724-0030 Fax. 092-724-0031

Map

